



特別展 「幻の写真家 チャールズ・ウィード 知られざる幕末日本の風景」 後期スタート! 新収蔵写真 初公開

横浜開港資料館では、慶応3年(1867)~4年にかけて来日した、アメリカ人カメラマン、チャールズ・ウィードが撮影した日本の風景・風俗写真7枚を今年度新たに入手しました。現在開催中の特別展「幻の写真家 チャールズ・ウィード」の後期展示にて初公開します。〔展示期間:2023年2月21日(火)~3月12日(日)〕

初公開資料 ① 山手の浅間神社から見た元町と横浜居留地(北西部)



チャールズ・ウィード撮影 慶応3(1867)~4年 当館蔵 サイズ:21.3×31.2 cm

山手から横浜居留地を撮影したものはこれまでに確認されていましたが、この年代、この方角、そしてこのサイズの写真は今回初めて発見されました。

浅間神社(現元町百段公園)付近から横浜居留地の北西部を撮影したもので、手前が元町、堀川をはさんで向かいが外国人居留地で、堀川のすぐ向うの右手、寄棟の建物2棟がアメリカ海軍物置場の建物になります。その左の建物には「HENDERSON & WEST COMPRADORES & NAVAL STORE CONTRACTERS」と書かれた看板が見えます(居留地113番)が、当時の外国人住所録ではヘンダーソン&ウェストは肉屋と記録されています。幕末期の外国人居留地の詳細がわかる歴史資料として貴重な1枚です。



写真の撮影場所と向き

初公開資料 ② 「チャールズ・ウィード撮影 ハーフ・ステレオ写真シート」

台紙に鶏卵紙が6枚貼付され、手書きでキャプションが記入されたものです。収集者はおそらく日本の風俗をあらわしている写真を集めたものと推測されます。

③は、慶応3年9月に現在の浜離宮で撮影されたもので、アメリカ公使ヴァルケンバーグ（後列左端）、老中格稲葉正巳（前列中央）、海軍奉行大関増裕（右から3番目）らが写る貴重な1枚。⑤は、絨毯の柄から横浜の著名な写真家下岡蓮杖のスタジオで撮影されたと推測され、ウィードと蓮杖のつながりを検討できる重要な資料です。

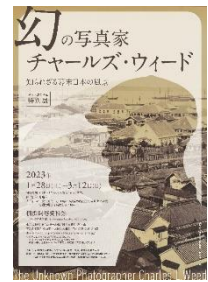
チャールズ・ウィード撮影 慶応3（1867）～4年 当館蔵
サイズ：35.1×25.0 cmの台紙にハーフ・ステレオサイズ（約8.2×8.7 cm）貼付

①長崎大光寺（左上）／②日本の駕籠（右上）／③米公使と海軍奉行大関増裕ら集合写真（中段左）／④長崎の僧侶たち（中段右）／⑤火鉢を囲む茶屋の女性（左下）／⑥善福寺の庭（右下）



◆特別展概要◆

名 称	特別展「幻の写真家 チャールズ・ウィード 知られざる幕末日本の風景」
会 期	2023（令和5）年1月28日（土）～3月12日（日）
開館時間	午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
観 覧 料	一般 500 円、小・中学生・横浜市内在住 65 歳以上 250 円 毎週土曜日は高校生以下無料
休 館 日	月曜日



展覧会図録 好評販売中

『幻の写真家チャールズ・ウィード 知られざる幕末日本の風景』

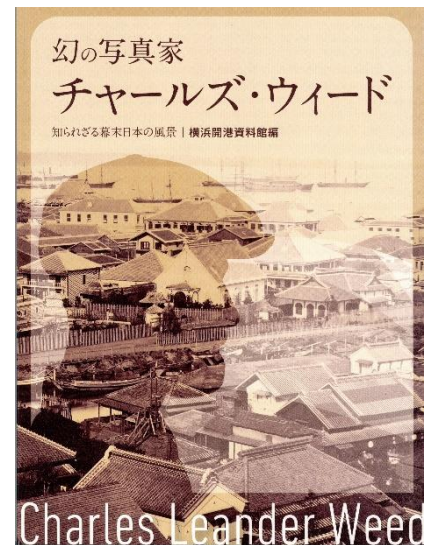
2,200 円（税込）

横浜開港資料館編・（公財）横浜市ふるさと歴史財団発行

A4判変型・128頁（令和5年1月）

チャールズ・ウィード (Charles Leander Weed, 1824-1903)

アメリカのプロカメラマンで、カリフォルニアを中心とした風景を大判カメラで撮影したことで知られています。しかし、日本時代の作品は国内の公的機関ではわずか30枚ほどしか所蔵が確認されておらず、また経歴にもわからない部分が多い「幻の写真家」です。



お問合せ先

横浜開港資料館 副館長：青木祐介 展示担当：吉崎雅規 広報：久保暢子

TEL045-201-2100